
インド洋津波に関する報道が
釜石市民の意識・行動に与えた影響に関する実態調査



群馬大学工学部建設工学科
災害社会工学研究室

調査概要

実施方法

配布：平成17年9月1日に広報と一緒に配布

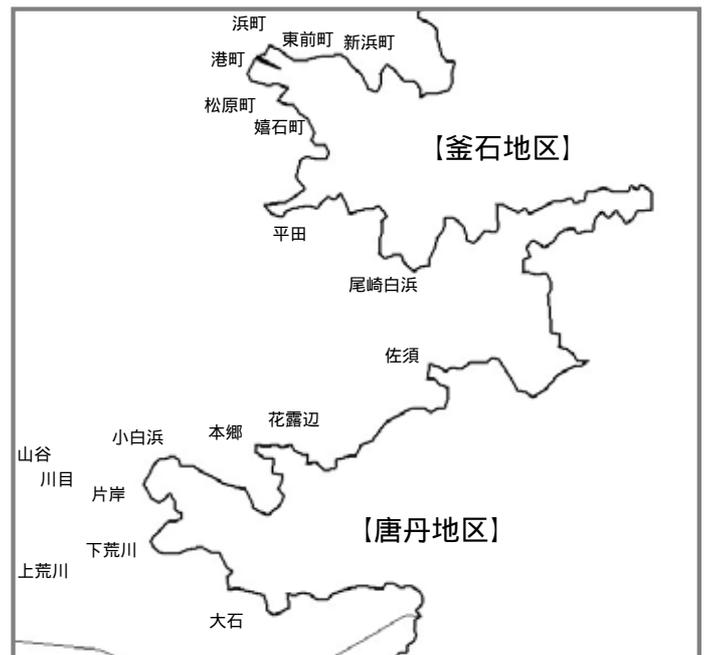
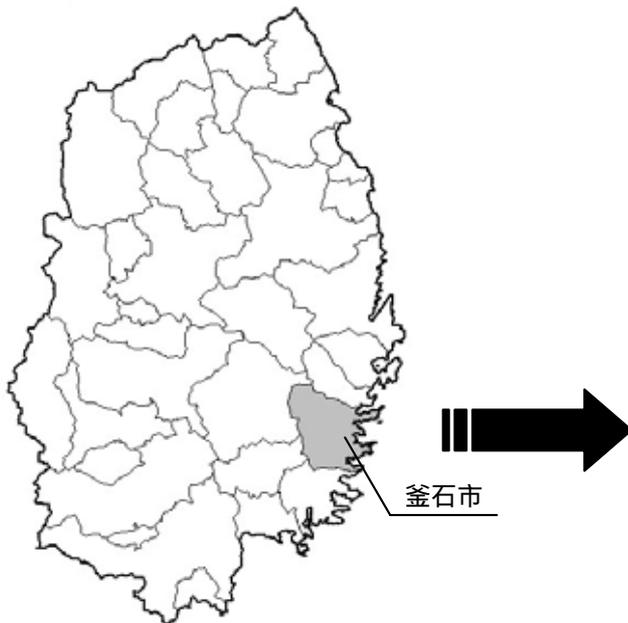
回収：返信用封筒を用いて、郵送にて回収

配布・回収数

地区名	配布数	回収数	回収率(%)	地区名	配布数	回収数	回収率(%)
松原町1丁目	107	17	15.9	東前町2	106	22	20.8
松原町2丁目	91	14	13.1	東前町1	80	11	13.8
松原町3丁目	80	10	9.3	新浜町2	38	7	18.4
嬉石町2	77	16	15.0	新浜町1	85	14	16.5
嬉石町1	68	12	11.2	浜町1丁目	114	24	21.1
嬉石町4	115	17	15.9	本郷	169	19	11.2
下平田3	188	35	32.7	花露辺	75	21	28.0
下平田2	184	23	21.5	北小白浜	127	41	32.3
下平田1	128	22	20.6	南小白浜	100	18	18.0
港町	70	11	10.3	片岸・川目	124	33	26.6
嬉石町3	118	18	16.8	佐須	28	7	25.0
浜町3丁目1	121	30	28.0	山谷	21	0	0.0
浜町3丁目2	82	5	4.7	下荒川	70	17	24.3
浜町3丁目3	69	9	8.4	上荒川	45	8	17.8
浜町2丁目	118	31	29.0	大石	50	0	0.0
東前町3	40	7	6.5	尾崎白浜	117	22	18.8
全地区合計	3005	541	18.0				

配布地区

【岩手県】



【住民の事前意識】

多くの釜石市民は、インド洋津波発生前から津波に対して高い関心を持っていた！

【報道の効果1】

多くの釜石市民は、インド洋津波に関する報道を高い関心を持って、釜石市での津波を意識しながら、視聴していた！

【報道の効果2】

多くの釜石市民は、インド洋津波に関する報道を見て、釜石市での津波の発生可能性やその際の被害の程度などに関する意識が変化した！

【報道の効果3】

多くの釜石市民は、インド洋津波に関する報道を見て、釜石市でもインド洋津波のような大津波が発生することもあり得ると感じ、津波に備えた対応を行おうと思った！

【報道の効果4】

しかし、インド洋津波発生後、津波に対する何らかの対応をとった住民の割合は1 / 4程度であり、半数の住民はとろうとしたがすることができていなかった！

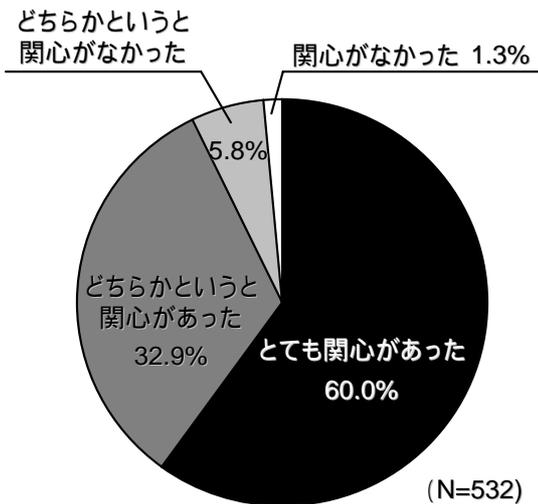
【問題点1】

多くの釜石市民は、津波からの避難について、情報に大きく依存している！

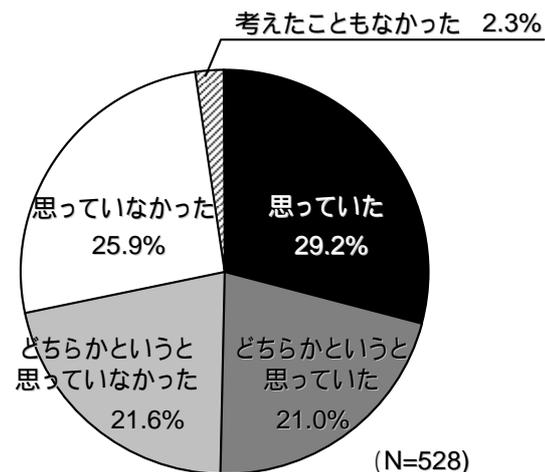
【問題点2】

多くの釜石市民は、津波の発生メカニズム等に関して多くの誤解をしている！

インド洋津波発生前の釜石市民の津波に対する意識は？



津波に対する関心

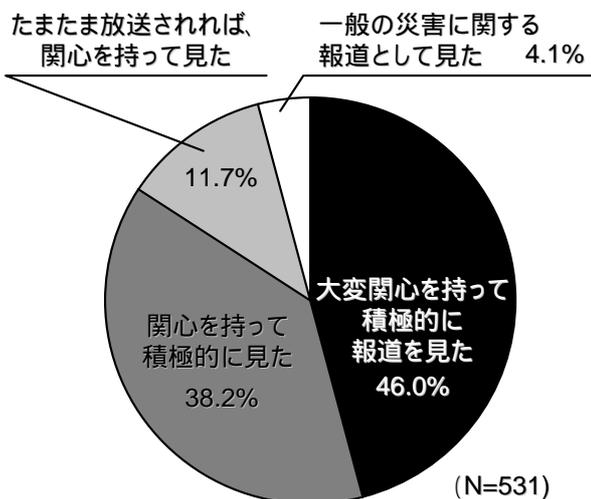


津波が発生した場合の自宅が被害あう可能性

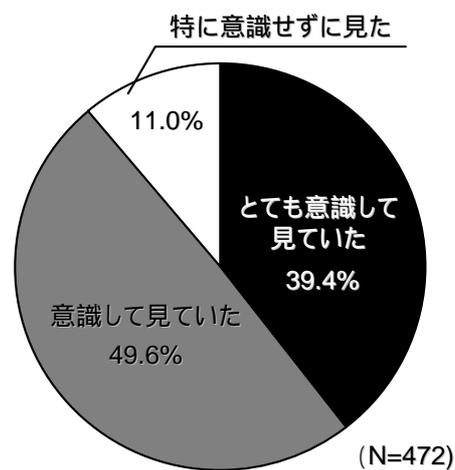


90%以上の住民が津波に対する関心を持っていた一方で、津波によって自宅が被害にあうと思っていた住民は約半数であった。

釜石市民は、どのような意識でインド洋津波の報道を見ていたのか？



インド洋津波を視聴した際の意識・姿勢

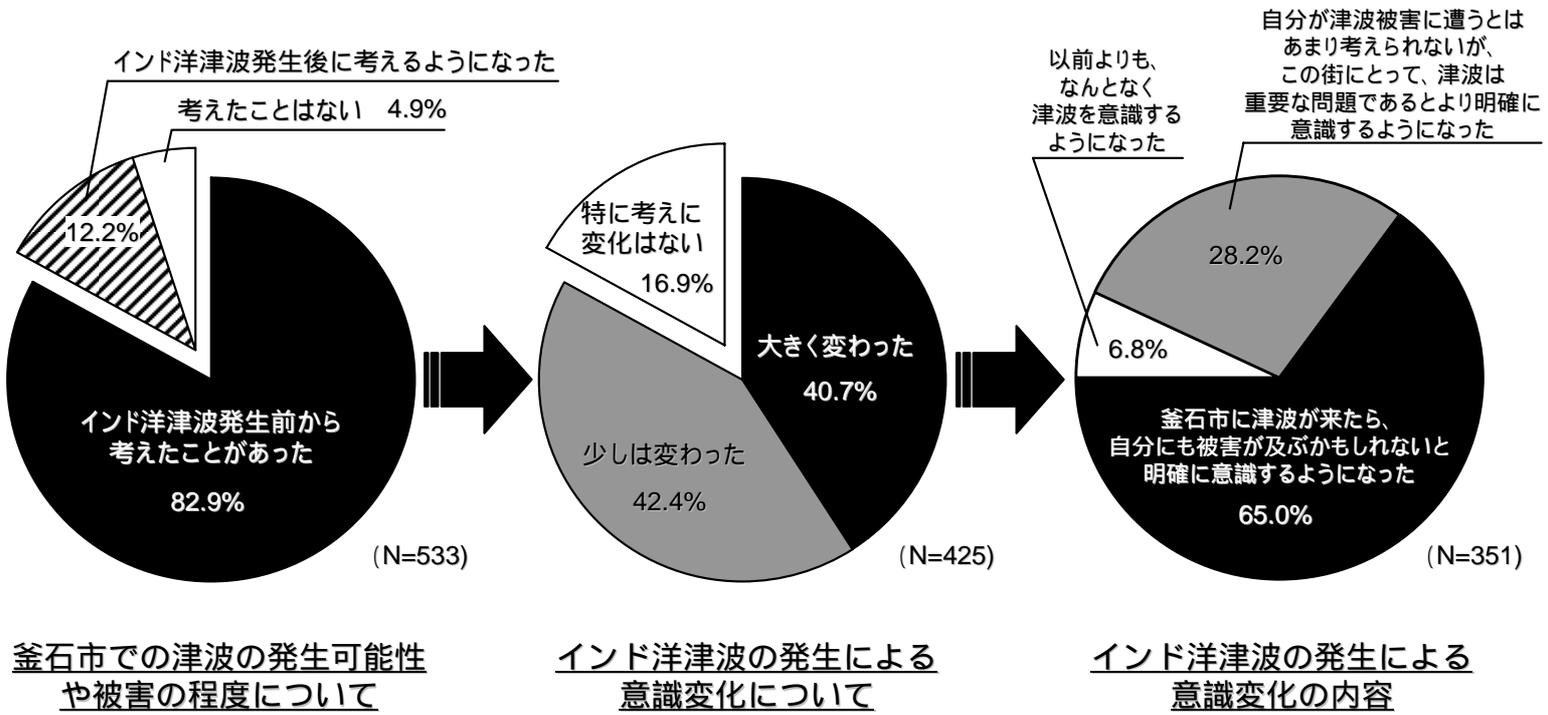


釜石市のことを意識したか



約75%の住民が関心を持って積極的にインド洋津波に関する報道を視聴しており、また、約90%の住民はそれらの報道を釜石市での津波のことを意識して見ていた。

インド洋津波に関する報道によって、釜石市民の津波に対する意識は変化したのか？



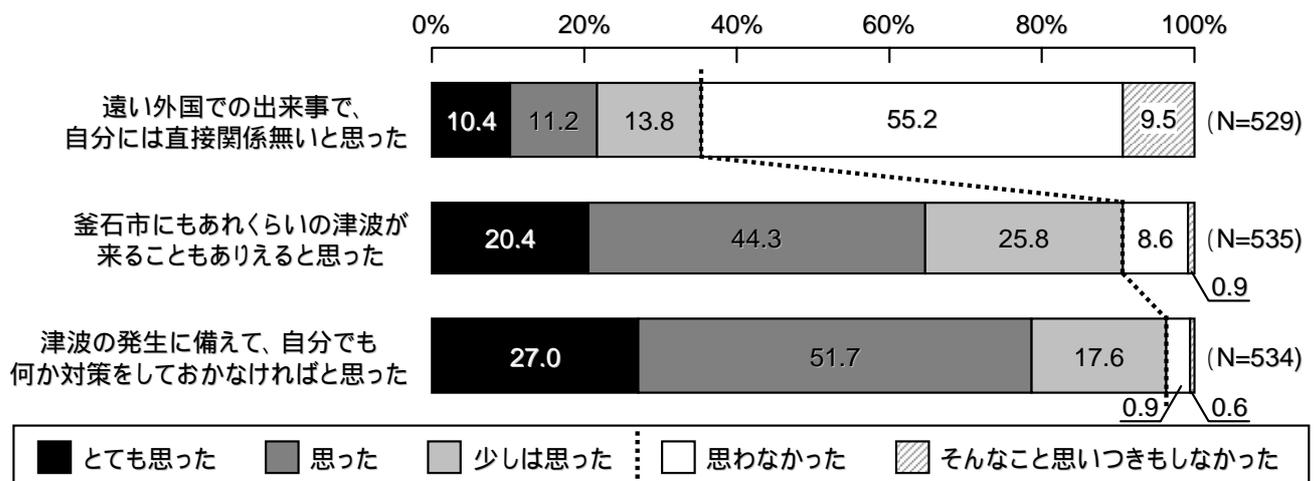
釜石市での津波の発生可能性や被害の程度について

インド洋津波の発生による意識変化について

インド洋津波の発生による意識変化の内容

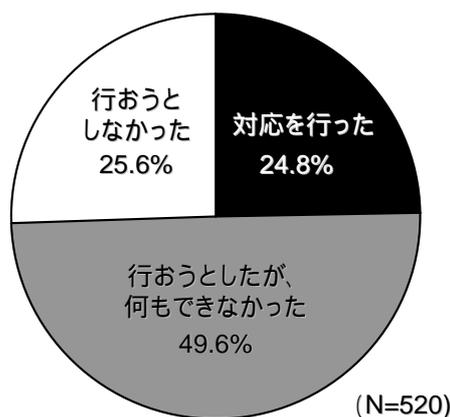
! インド洋津波発生後に『釜石市での津波の発生可能性』などを考えるようになった住民が約12%存在した。
 インド洋津波発生前から『釜石市での津波の発生可能性』などを考えたことがあった住民についても、そのうち約83%の住民は、インド洋津波の発生によって、それまでの考えに何らかの変化が生じたと解答している。
 その内容としては、『釜石市での津波を明確に意識するようになった』と65%の住民が解答している。

釜石市民は、インド洋津波の報道を見て、どのような感想を持ったのか？



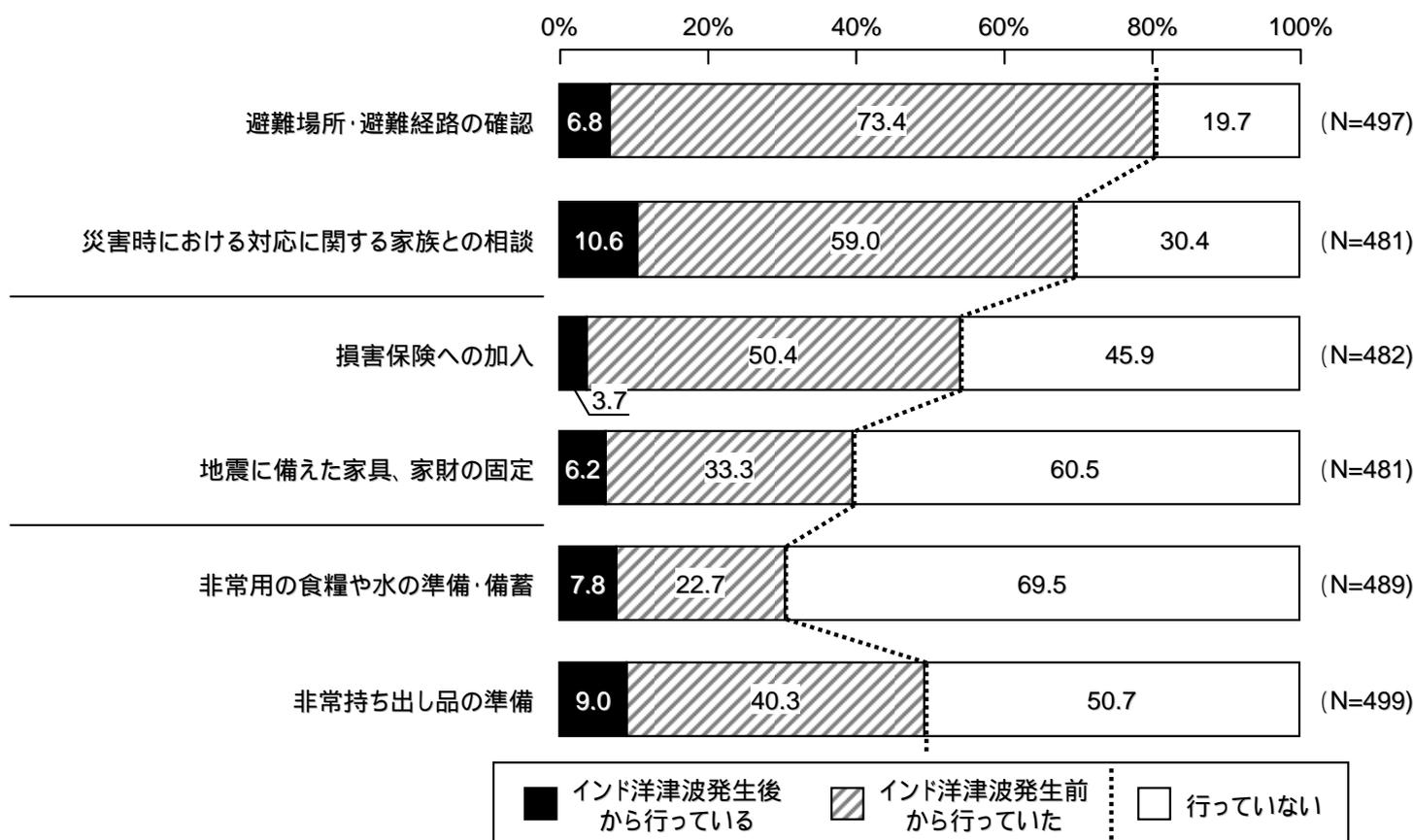
! 65%の住民は今回のインド洋津波の発生を『自分には関係ない』とは思わず、多くの住民(約90%)は『釜石市でもあり得る』と思った。
 そのために、『何か対策をしておかなければ』とほぼ全ての住民が思った。

インド洋津波発生後，釜石市民は津波に備えて何らかの対応を行ったか？



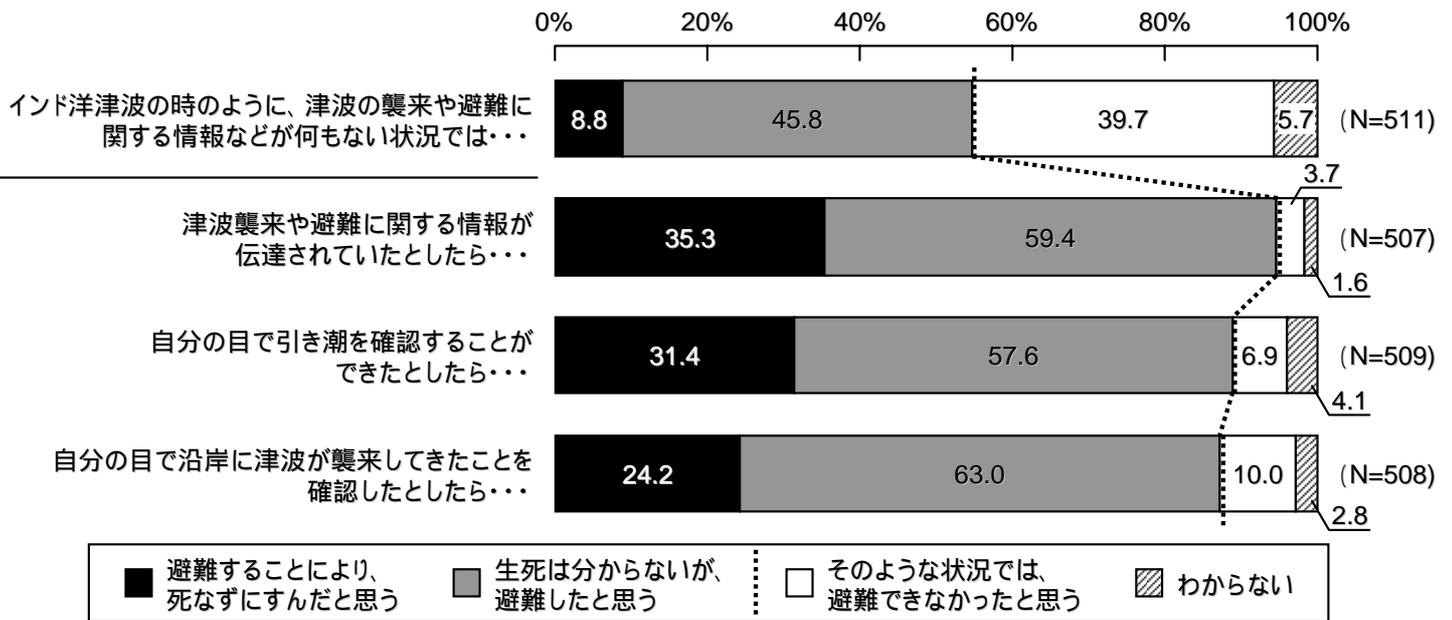
約25%の住民は，インド洋津波発生後に何かしらの『対応を行った』ものの，約50%の住民は『行おうとしたができなかった』，約25%の住民は『行おうとしなかった』と解答している．

インド洋津波発生後，釜石市民は具体的にどのような対応を行ったのか？



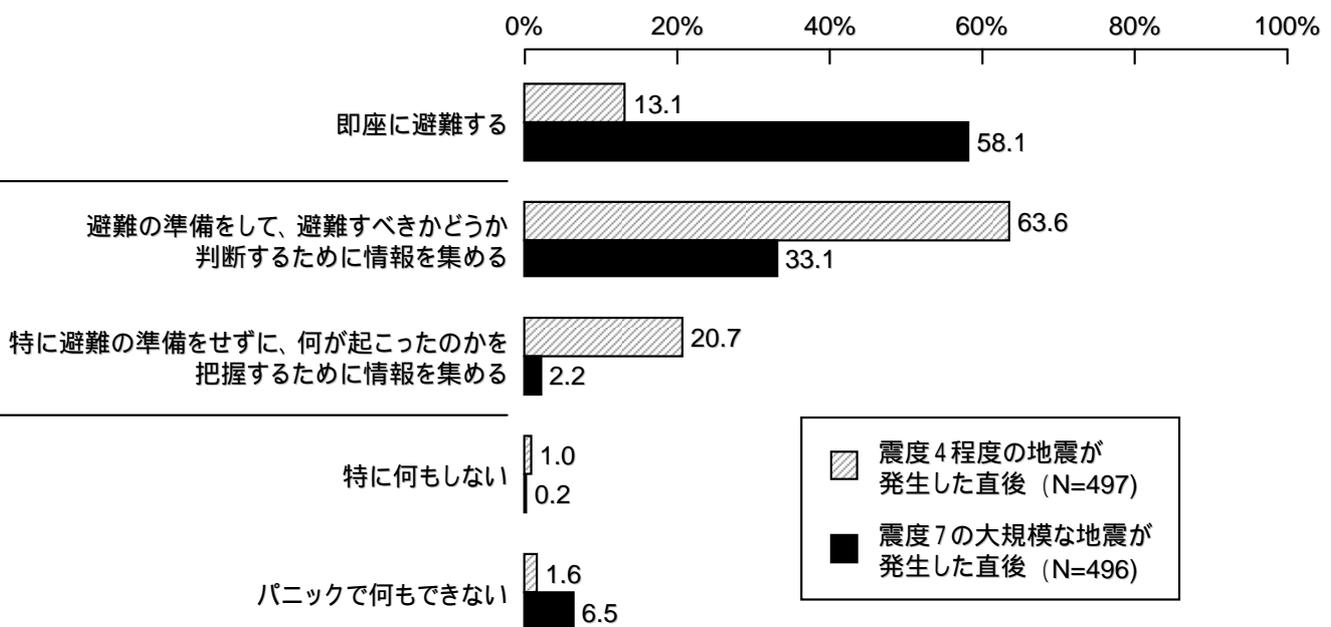
インド洋津波発生後から各対応を行うようになった住民は6～11%程度であった．また，インド洋津波発生前から行っていた住民をあわせても，『非常持ち出し品の準備』や『家具・家財の固定』『食糧・水の備蓄』などの対応を行っている住民の割合が低い，

もし、インド洋津波の被災地に、あのときあなたがいたとしたら・・・



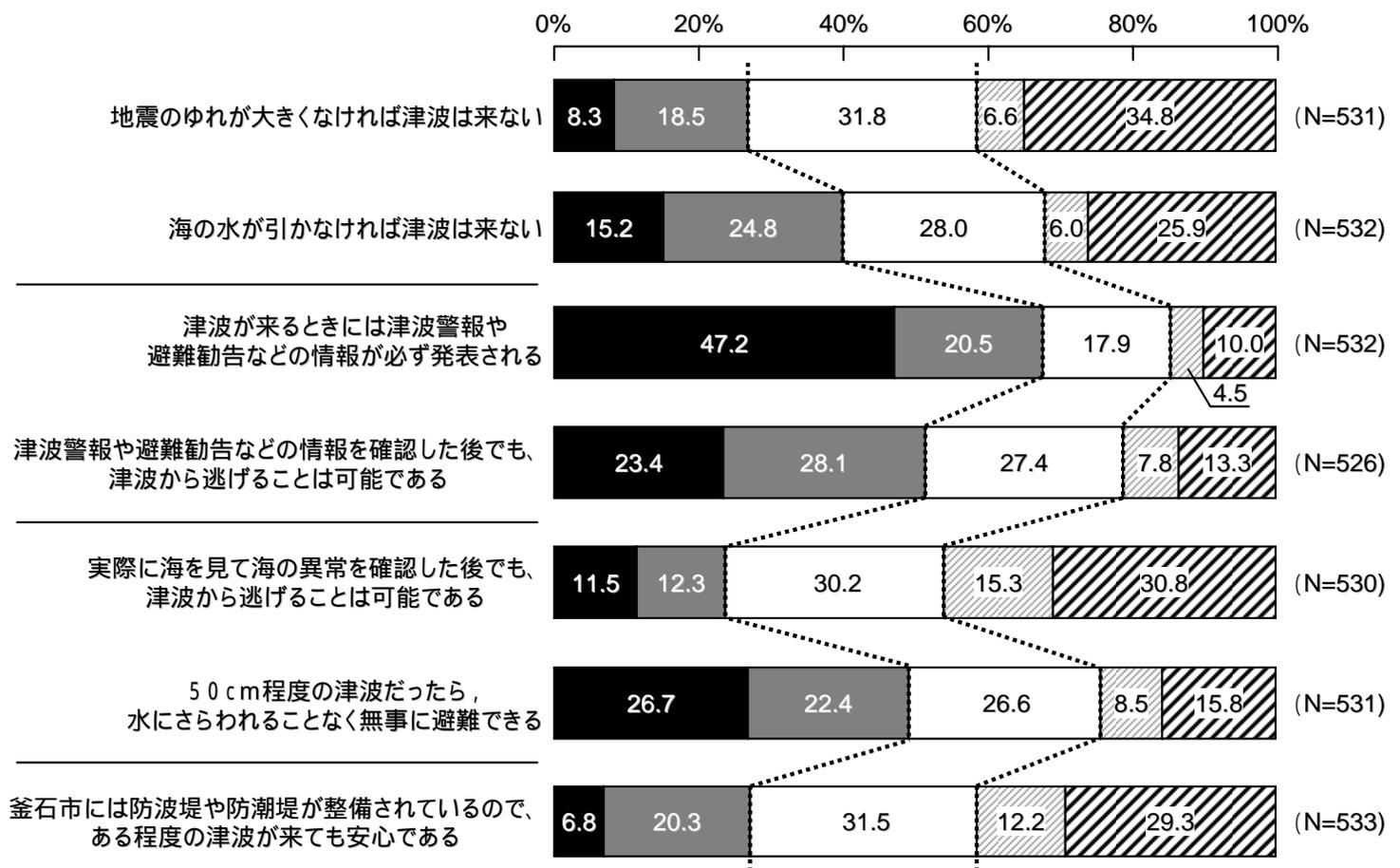
約40%の住民は『情報が何もない状況』では避難できなかったと解答しているが、何らかの情報や状況の変化を確認した場合、多くの住民は避難したと解答している。しかし、『引き潮を確認した後』で約31%の住民が、『沿岸に津波が襲来したことを確認した後』でも約24%の住民が、死なずにすんだと解答している

釜石市で大きな地震が発生した場合、あなたならどうする？



震度4程度の地震では、『避難の準備をして』と『準備をせずに』を合わせて、約84%の住民は情報を集めると解答しており、『即座に避難する』と解答した住民は約13%であった。震度7の大規模な地震であっても、約33%の住民は『避難の準備をして情報を集める』と解答している。

釜石市民の津波に関する知識や意識レベルはどの程度か？



そう思う
 どちらかという
そう思う
 どちらとも
いえない
 どちらかという
そう思わない
 そう
思わない



津波の発生メカニズムに関する誤認

約27%の住民は「地震のゆれが小さくないと津波は来ない」と思っており、また、40%の住民が「海の水が引かなければ津波は来ない」と思っている。

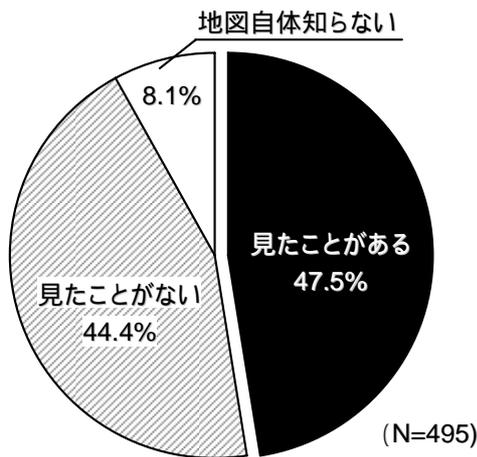
過剰な情報依存

約68%の住民は「津波が来るときには必ず情報が発表される」と思っており、また、約52%の住民が「情報を確認した後も津波から逃げられる」と思っている。

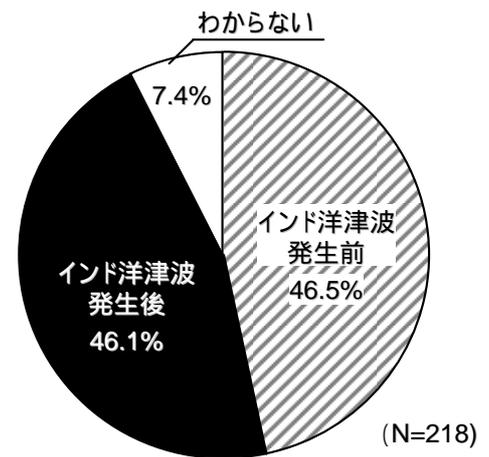
津波避難を安易に考える傾向

約24%の住民は「海の異常を確認した後も逃げられる」と思っており、約49%の住民は「50cm程度の津波であれば無事に避難できる」と思っている。また、約27%の住民が「防災施設によって、津波が来ても安全」と思っている。

『津波浸水予測地図』の認知率はどの程度か？



『津波浸水予測値図』を見たことがあるか

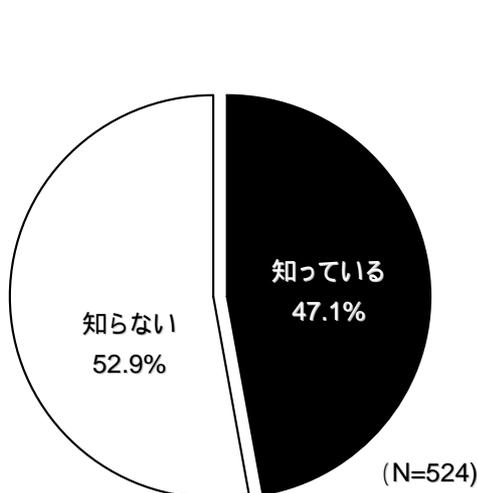


初めて見たのはいつか

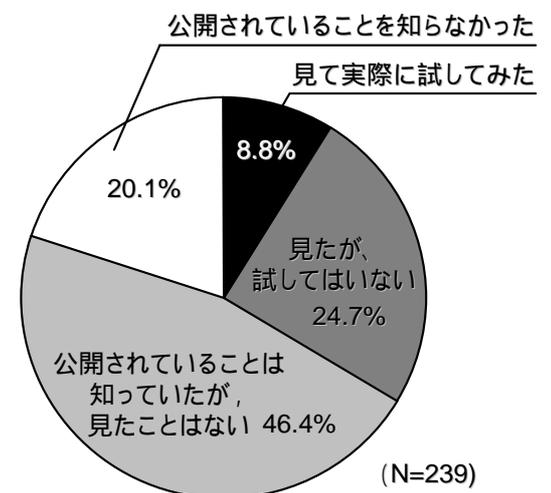


約8%の住民は、『津波浸水予測地図自体を知らない』と解答している。
 約48%の住民は、津波浸水予測地図を見たことがあり、
 そのうち、約46%に住民は、インド洋津波発生後に初めて見たと解答している。

『動く津波ハザードマップ』の認知率はどの程度か？



『動く津波ハザードマップ』を知っているか



見たことがあるか



約47%の住民は、『動く津波ハザードマップを知っている』と解答しており、
 そのうち、約9%の住民は『実際に試した』ことがあり、
 約25%の住民は『試してはいないが見たことはある』と解答している。